

黒岩地区地域農業マスタープラン

市町村名	集落/地域名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(9回目)	更新年月(10回目)	更新年月(11回目)	更新年月(12回目)
北上市	黒岩	平成24年12月	平成25年2月	平成29年2月	平成29年9月	平成30年2月	平成31年2月

1. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている/**担い手はいるが十分ではない**/担い手がいない

2. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
担い手に集積・集約化する	○	
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に自由に記載]		

3. 2についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	現在農地集積を進めている組織が任意組織のため、農地中間管理機構を通した農地集積ができない。
農地をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

4. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者のあり方)

取組事項	対応	コメント
複 合 化	○	＜現状＞ 当該地区は、近年の土地改良事業の導入にともない、個人経営体が集落営農組織(営農組合金山)と連携しながら、農地の利用集積を進めている地区です。土地利用型の作物では水稲や大豆の作付によって、水田利用を図っています。また、りんごやトマトなど多品目の園芸作物が生産されており、加えて畜産農家がいることから、牧草を作付けし、耕畜連携に取り組みながら、効率の良い農地利用を図っています。
6 次 産 業 化	○	中山間地における耕作放棄地の問題が顕在化しており、どのように管理するかが課題となっています。一部では新規就農者による無農薬栽培や畑わさびの取組など、条件不利地を活かした土地利用が図られています。
高 付 加 価 値 化	○	耕作者の高齢化や後継者不足が深刻な課題となっているが、営農組合金山による農地の集積、再配分の取組みにより、農地の維持管理がなされています。地区内には、産地直売所があり、これらを拠点とした地域振興に意欲的に取り組んでおり、地場産品を活用した6次産業化を推進しています。新たな試みとして、バナナの生産に取り組む農家もいます。
新 規 就 農 の 促 進	○	＜今後の取組＞ ①土地利用型農業においては、地区内の農地集積の向上を図るため、水稲については減農薬減化学肥料による米づくり、大豆については多収量生産の技術を導入を図ります。 ②りんご生産においては、今後も減農薬減化学肥料の栽培を継続し、高品質なりんご産地として消費者へPRし、需要の拡大を図ります。 ③トマトやさといもなど園芸作物を栽培する複合経営者がいることから、農業者の仲間づくりによって、園芸振興を図ります。 ④畜産部門においては、飼料価格が高騰していることから、低利用水田に牧草を作付けし、生産コストを抑制することで畜産農家の経営の安定化を図ります。 ⑤産地直売所等の地域の拠点を中心に、産直経営や加工品販売など6次産業化の取組を拡大し、農業所得の向上を目指します。
そ の 他 []		⑥上記①～④の取組を担保するために、個人経営体の世代交代や新規就農者の確保・育成などの取組を推進し、新たな地域の中心となる経営体の増加を図ります。また、上記⑤においては、農家女性の活力を活かした農村づくりを目指します。 ⑦地域の担い手を法人に一本化し、地域の課題についてひとつずつ取り組んでいきます。 ⑧中山間地の条件不利地については、地域内での有効活用を図るとともに、地域外の担い手や新規就農者などへの開放なども検討していきます。